

2022 年度 授業計画(シラバス)

|         |       |                 |                       |           |               |
|---------|-------|-----------------|-----------------------|-----------|---------------|
| 学 科     | 看護学科  | 科 目 区 分         | 専門基礎分野                | 授業の方法     | 講義            |
| 科 目 名   | 臨床薬理学 | 必修/選択の別         | 必修                    | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年次   | 学期及び曜時限         | 後期                    | 教室名       | 視聴覚室・講堂       |
| 担 当 教 員 | 直良浩司  | 実務経験と<br>その関連資格 | 島根大学附属病院に教授・薬剤部長として勤務 |           |               |

《授業科目における学習内容》

重要医薬品について焦点をあて、体系づけて学習を進めていく。まず、薬物の人体へのはたらきと生体側の対応を理解し、看護師の視点に方向づけ考えていく。そして疾患の原因をとらえ原因を除去するための薬の使用と作用を理解しながら、系統別の学びへとすすめていく。看護師が関係する医療事故といえは30から40%が薬物に関する事で、最も多くを占める。このことは看護業務のなかで薬を取り扱う場面が多いことを表している。基礎教育で薬について学習したことを看護の実際にかし、将来の看護の質の向上につなげていけるように学んでいく。

《成績評価の方法と基準》

出席状況並びに筆記試験で総合的に評価する

《使用教材(教科書)及び参考図書》

系統看護学講座 専門基礎 薬理学 医学書院

《授業外における学習方法》

テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。

《履修に当たっての留意点》

| 授業の方法       | 内 容         |   | 使用教材                 | 授業以外での準備学習<br>の具体的な内容     |
|-------------|-------------|---|----------------------|---------------------------|
| 第1回<br>講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 薬物療法における看護師の役割について説明できる   | テキスト<br>配布資料<br>AV機器 | テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。 |
|             | 各コマにおける授業予定 | 薬物における病気の治療<br>①薬物とは ②使用目的 ③看護師の役割<br>薬理学とは何か<br>看護業務に必要な薬の知識   |                      |                           |
| 第2回<br>講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 薬力学、薬物動態、薬物相互作用、薬効の個人差、薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について説明することができる。         | テキスト<br>配布資料<br>AV機器 | テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。 |
|             | 各コマにおける授業予定 | 薬理学の基礎知識1<br>薬力学、薬物動態、薬物相互作用、薬効の個人差、薬物使用の有益性と危険性、薬と法律           |                      |                           |
| 第3回<br>講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 薬力学、薬物動態、薬物相互作用、薬効の個人差、薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について説明することができる。         | テキスト<br>配布資料<br>AV機器 | テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。 |
|             | 各コマにおける授業予定 | 薬理学の基礎知識2<br>薬力学、薬物動態、薬物相互作用、薬効の個人差、薬物使用の有益性と危険性、薬と法律           |                      |                           |
| 第4回<br>講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 抗感染症薬の種類と使用法、作用・副作用について説明することができる                               | テキスト<br>配布資料<br>AV機器 | テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。 |
|             | 各コマにおける授業予定 | 感染症治療に関する基礎事項<br>抗感染症薬<br>抗菌薬 抗真菌薬 抗ウイルス 抗寄生虫薬<br>感染症の治療における問題点 |                      |                           |
| 第5回<br>講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 抗がん薬の種類と使用法、作用・副作用について説明できる                                     | テキスト<br>配布資料<br>AV機器 | テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。 |
|             | 各コマにおける授業予定 | がん治療に関する基礎事項<br>抗がん薬各論 分子標的薬                                    |                      |                           |

| 授業の方法 |      | 内 容         |  | 使用教材                 | 授業以外での準備学習の具体的な内容         |
|-------|------|-------------|--|----------------------|---------------------------|
| 第6回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 免疫治療の種類と使用法、作用・副作用について説明できる  | テキスト<br>配布資料<br>AV機器 | テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。 |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 免疫系の基礎知識<br>免疫抑制薬<br>免疫増強薬・予防接種薬   |                      |                           |
| 第7回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 抗アレルギー薬の種類と使用法、作用・副作用について説明できる   | テキスト<br>配布資料<br>AV機器 | テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。 |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬<br>炎症と抗炎症薬<br>関節リウマチ治療薬<br>痛風・高尿酸血症治療薬                             |                      |                           |
| 第8回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 末梢神経活動に作用する薬物の種類と使用法、作用・副作用について説明できる   | テキスト<br>配布資料<br>AV機器 | テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。 |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 神経系による情報伝達<br>自律神経作用薬(交感神経・副交感神経)<br>筋弛緩薬・局所麻酔薬                                    |                      |                           |
| 第9回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 中枢神経活動に作用する薬物の種類と使用法、作用・副作用について説明できる   | テキスト<br>配布資料<br>AV機器 | テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。 |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 中枢神経系のはたらきと薬物<br>全身麻酔薬 催眠薬・抗不安薬 抗精神薬 抗うつ薬・気分安定薬<br>パーキンソン症候群治療薬 抗てんかん薬 麻痺性鎮痛薬 片頭痛薬 |                      |                           |
| 第10回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 循環器系に作用する薬物の種類と使用法、作用・副作用について説明できる   | テキスト<br>配布資料<br>AV機器 | テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。 |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 降圧薬 狭心症治療薬 心不全治療薬 抗不整脈薬 利尿薬<br>脂質異常症治療薬 血液凝固系・線溶系薬物 血液に作用する薬物                      |                      |                           |
| 第11回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物の種類と使用法、作用・副作用について説明できる   | テキスト<br>配布資料<br>AV機器 | テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。 |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物<br>気管支喘息治療薬他 消化性潰瘍治療薬他<br>女性・男性生殖器に作用する薬物 泌尿器に作用する薬物           |                      |                           |
| 第12回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 物質代謝、皮膚科用薬・眼科用薬に作用する薬物の種類と使用法、作用・副作用について説明できる                                      | テキスト<br>配布資料<br>AV機器 | テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。 |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | ホルモンとホルモン拮抗薬 治療としてのビタミン<br>皮膚に使用する薬物<br>眼科用薬                                       |                      |                           |
| 第13回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 救急の用いられる薬物と輸液・輸血の種類と使用法、作用・副作用について説明できる  | テキスト<br>配布資料<br>AV機器 | テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。 |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 1.救急に用いられる薬物<br>急性中毒に用いられる薬物<br>輸液製剤・輸血製剤  |                      |                           |
| 第14回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 救急の用いられる薬物と輸液・輸血の種類と使用法、作用・副作用について説明できる  | テキスト<br>配布資料<br>AV機器 | テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。 |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 2.救急に用いられる薬物<br>急性中毒に用いられる薬物<br>輸液製剤・輸血製剤  |                      |                           |
| 第15回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 漢方薬と消毒薬の種類と使用法、作用・副作用について説明できる   | テキスト<br>配布資料<br>AV機器 | テキストを読み予習する。授業内容をまとめ復習する。 |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 漢方医学の基礎知識<br>漢方薬各論<br>消毒薬  |                      |                           |